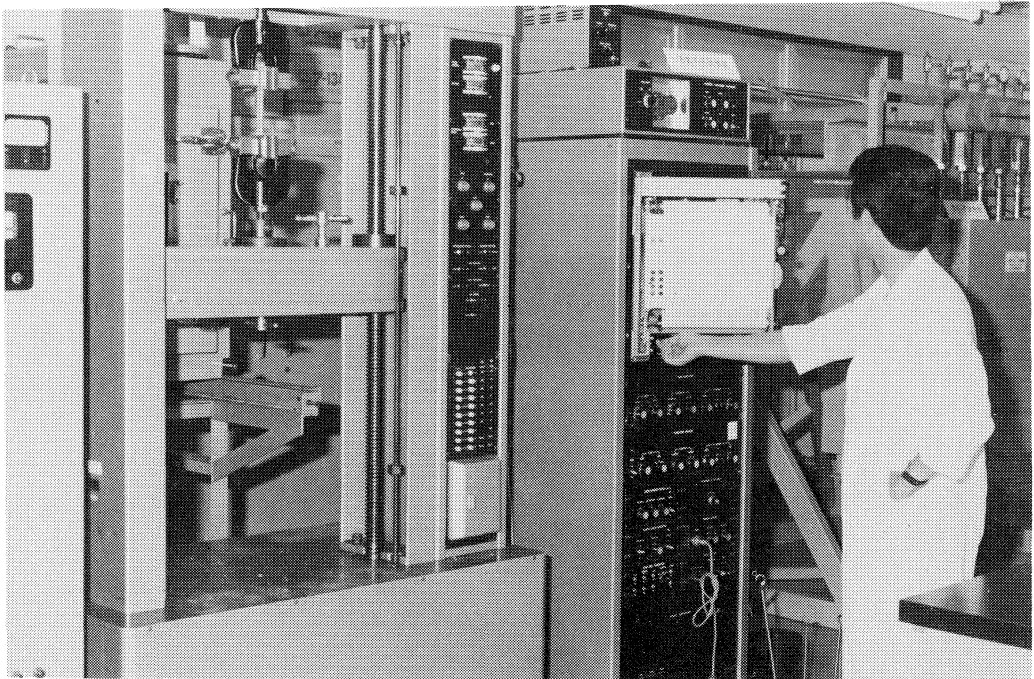


岐阜県の プラスチック

レジンメーカーの第3次値上げ出そろふ 1976 7月号



岐阜県工業技術センター（溝口勝信場長）は羽島郡笠松町北及地内に新庁舎完成いらい満5年目を迎えたが、この間、県内主産業の生産技術向上に必要な試験研究をし、また、技術相談や技術情勢の収集提供を行なうなど、業界の振興発展に活躍してきた。とくにプラスチック関係の施設は、繊維関係と並んで他県に誇る優秀施設が整備されており、プラスチックの特性、化学特性の試験研究、加工法の研究はじめ各面で業界関係者の活用を呼び

他県に誇る施設機器

岐阜県工業技術センター 業者の利用呼びかけ

かけている。プラスチック関係の施設を紹介すると、高分子加工実験室（射出成形機、圧縮成形機、押出成形機など）高分子材料研究室（引張強さ、曲げ強さ、圧縮強さ、クリープ、硬さ、衝撃強さなど）X線回析研究室（X線回析装置、ソフテックス、放射線測定装置など）のほか高分子研究室、加工研究室など数多い。なお、次号から個々の施設、機器について紹介します。

（写真は高分子材料研究室）

7月値上げ出そろう

大手5社の汎用合成樹脂

実施時期は微妙な情勢

住友化学、三菱油化、三井石油化学、昭和油化、旭ダウの汎用合成樹脂大手5社の7月値上げが出そろった。今回の値上げは、かねて第3次値上げとして予測されていたもので、4月からのナフサ1,200円アップ分、つまりナフサキロリットル2,900円をベースに7月初めから月末にかけてキログラム当たり10円（第2次値上げの半分）幅で値上げするもの。しかし、高圧ポリエチレンフィルム業界が不況カルテルを結成するなど加工品の値上げが遅れているだけに、実施時期は微妙な情勢である。

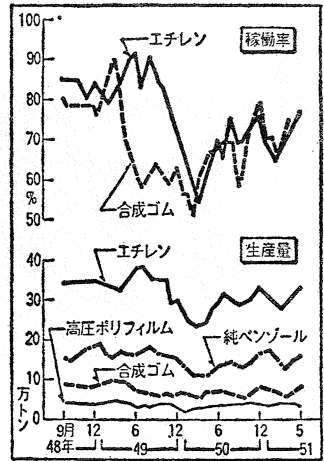
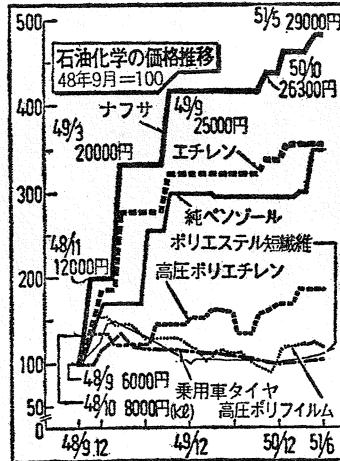
5大汎用合成樹脂業界は、昨年8月から通産

を実施している。

省のガイドライン方式による行政指導で在庫が

現在、加工メーカーは原油、ナフサ、エチレン

正常に戻るなど、需給バランスはかなり改善されてきている。このためナフサ27,800円に見合う価格修正（キロ当たり2,000円）は高圧ポリエチレン、中低圧ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンの4樹脂がこの3月から4月にかけて浸透、塩ビポリマーも5月末には浸透し、いずれも新価格での取り引き



NIIGATA

ニイガタ 射出成形機

(株)新潟鉄工所名古屋営業所

〒460 名古屋市中区栄二丁目1の1(日土地ビル) TEL.052-221-7621

ン、プロピレンと順次値上がっていく中で、製品価格の値上げと取り組んでいるが、予定よりも遅れている。加工製品の価格体系づくりは、塩ビの軟質製品、ポリオレフィンフィルムなどが当初予想されたほど進んでいないからともいえる。

レジン業界は、こうした成形加工製品の価格体系への移行を待って再値上げ（第3次値上げ）する方針を打ち出したものである。しかし、加工製品の値上げは6月中旬に全面浸透することは期待できないとされているだけに、7月中旬のレジン再値上げは必ずしもスムーズに進まないとされるわけ。

玉突き値上げに悩む成形業界

5大汎用合成樹脂の中で、塩ビポリマーだけは、今回のナフサ再値上げ（キロ当たり1,200円）に対する値上げを見送ることにしている。塩ビの場合は、ナフサキロ1,200円の値上げはエチレンでキロ2～3円のアップにしかならず、しかも5月末に値上げ実施したばかりであるからだ。

高圧ポリエチレンなど他の汎用合成樹脂はキロ10円の値上げを実施して適正価格にする方針であるが、レジン業界と加工業界との交渉は第2次値上げの時以上に難航が予想される。

ともあれ石油製品は昨年10月のOPEC原

油10%高をも織り込み高価格体系への移行はひとまず完了したが、据野の広い石油化学の分野ではいまなお不況から立ち直れず、減産と値上げに明け暮れている。なかでも「玉突き値上げ」の後遺症に悩む姿は、とりわけ川下分野の加工業界では深刻である。レジンの第3次値上げを受けた加工業界は、合理化も限界にきていることから製品価格の改定に最大の努力をはらうより道はなさそう。ところが現実には「この不況の中では、これ以上、製品価格への転嫁はむずかしい」とする業者の声が満ち満ちている。

さる5月に開いた岐阜県プラスチック工業組合総会の席上で記念講演した全国プラスチック成形工業連合会の井手勝也専務理事は「石油価格の体系を念頭において、製品価格の改定に最大の努力をはらわねばならないが、それを有利に進めうる道は「付加価値の高い製品づくり」よりほかはない」と訴えていた。

溝口勝信氏（岐阜県工業技術センター場長）は6月29日、胃ガンのため死去された。告別式は7月1日正午から大垣市安井町の縁覚寺で行なわれ、プラスチック業界関係者も多数参列した。溝口さんは昭和44年10月県製紙試験場長、同49年4月から工業技術センター場長をつとめるなど県内産業の振興発展に尽された。

不飽和ポリエステル樹脂

RIGOLAC(リゴラック)

低 収 縮 樹 脂……
MMD用・SMC用・BMC用
低 収 縮 成 形 材 料……
SMC・BMC
ビスフェノール系耐食樹脂……
LP-1系

昭和高分子株式会社

本 店 東京都千代田区神田錦町3-20(神田中央ビル) ☎(03)293-3631
大阪支店 大阪市東区京橋2-15(松村ビル3階) ☎(06)942-2201
名古屋支店 名古屋市中区丸の内3-18-12 ☎(052)951-5351

7-9月まで延長

5大樹脂のガイドライン

通産省が心理効果を狙う

通産省基礎産業局は、汎用5大樹脂にたいするガイドラインを6月末で打ち切る方針で、その善後措置を検討していたが、7月以降もひきつづき各樹脂の市場動向には警戒が必要とみて、一応9月までの3カ月間にかぎり各樹脂の需給予想をたてねばならないとの考え方を強めている。

具体的には7～9月にかぎって樹脂別に需給状況をはあくし、あわせて実際の生産販売活動を見守っていくことになる見通し。

これに対し汎用樹脂業界では、石化協の高圧ポリエチレンなど各委員会代表を通じてガイドライン実施の継続を当局に訴えている。すでに各樹脂の在庫規模がほぼ適正水準まで縮小できたことと、従来のガイドラインがあくまでも緊急避難的措置であったことから、その役割りはおおむね終了したなどの点から通産省内にはガイドライン継続の意志はまったくないとみてよい。

しかし、後処理として監視体制の確立がポスト・ガイドライン対策として、取り上げられることは間違いない。

ナフサ再値上げの混乱を防ぐ

5大樹脂に対するガイドラインは、著しく膨脹した各樹脂の在庫を正常な規模に縮小し、市場機能を回復させることに本来の目的があった。結果的にはほぼ適正在庫を実現できたとみられる3月末以降もなお3カ月間延長されるに至ったのは、もっぱら4月以降における石油製品の標準価格問題の影響を重視せざるをえなかったからだとしている。

通産省基礎産業局では「ナフサの再値上げによる石油化学業界の混乱を最小限に防ぎ、新価格体系を加工製品など末端に至るまで浸透させていくためには、4月以降も続いて需給安定化の体制を行政指導によって継続するほかはない」と判断し、ガイドラインの延長、実施に踏み切ったわけである。

こうした措置は、通産省が企業の販売活動について常に目を光らせているという心理効果を狙ったとみる向きが多い。



秋元産業株式会社

本社 東京都中央区八重洲5の7
名古屋営業所 名古屋市中村区米屋町2(埼玉ビル9F)
TEL <052> 582-5071

ソ連を除いて生産減

75年・世界のプラスチック生産量

1975年の世界のプラスチック生産は、経済情勢の変化から総体的に有史以来的落ち込みを記録した。日本プラスチック工業連盟の調査によると、1975年の世界プラスチック総生産量は41,142千トンと推定され、前年比91.7%となった。

国別に生産量の推移をみるとソ連を除いて各国とも前年の生産量を下回った模様である。そこで各国の生産量が、過去の年間生産量を参考に、何年くらい後退したかをみよう。アメリカは3年、日本は5年、西ドイツは3.5年、イタリアは2.5年、フランスは2.5年、イギリスは3年となっている。とくに日本は後退した。

その他生産量ではBクラスにあたるオランダ、ベルギー、カナダ、スウェーデン、オーストラリアも前年を下回ったと推定される。

プラスチック主要生産国の生産量推移

() 内はプラ工連にて推定。(単位: 1,000t)

年	国名	アメリカ	日本	西ドイツ	イタリア	フランス	ソ連	イギリス	その他	合計
1965 (昭40)		5,123	1,601	1,921	844	677	728	943	2,325	14,162
1970 (45)		8,463	5,128	4,326	1,740	1,515	1,553	1,458	5,504	29,687
1971 (46)		8,893	5,216	4,786	1,890	1,650	1,860	1,580	6,379	32,254
1972 (47)		11,142	5,675	5,571	2,124	2,100	2,040	1,608	7,500	37,760
1973 (48)		12,539	6,537	6,436	2,623	2,540	2,300	1,886	9,315	44,176
1974 (49)		12,333	6,693	6,271	2,640	2,616	2,500	1,865	9,931	44,849
1975 (50)		(11,000)	5,167	(5,100)	(2,400)	(2,300)	(3,000)	(1,650)	10,525	41,142

◎ポリフィルム工組が構改急ぐ◎

日本ポリオレフィンフィルム工業組合(牧野新二理事長、会員332社)は、中小企業近代化促進法に基づく業界の構造改善事業と取り組むことにし、十月申請をメドに計画立案を進める。同業界は46年に近促法の指定業種になったが

これまで下請けを含めて500社にものぼる乱立状態から具体化しなかった。こんど構造改善に踏み切ったのは①長期需要低迷によって60%の過剰設備を抱えている②韓国、台湾、シンガポール、イランなど発展途上国の追い上げが予想される一などの理由による。



東芝機械株式会社

本社 東京都中央区銀座4丁目2-11
 名古屋営業所 名古屋市中村区笹島町1-221-2(豊田ビル3F)
 化工機課 TEL <052> 561-8341

健康に影響与えない

ポリオレフィン BHTの統一見解出す 等衛生協議会

ポリオレフィン等衛生協議会(堀深会長)は、最近、社会問題になっている食品容器、包装、器具用プラスチックの添加剤BHT(酸化防止剤)の安全性について統一見解をまとめた。

それによると①BHTはわが国および諸外国で安全性が認められている食品添加物である②協会は使用について自主規制している一など健康に与える影響はないとしている。主な内容はつぎのとおり。

同協議会はさらに衛生、安全性を確保するため、食品容器に使われる樹脂グレードの業者間相互融通をいっさい中止することにした。

食品容器・包装および器具用プラスチックの酸化防止剤としてのBHTの安全性に関し、最近、疑問が提起されております。しかし、現在、ポリオレフィン等衛生協議会が規制している量のBHTを含んだプラスチックの食品用容器・包装および器具は人の健康に与える影響はないものと確信しております。

BHTは、わが国および諸外国において数々の権威ある機関で安全性が認められ、食品添加物となっている数少ない物質の一つであります。

ポリオレフィン等衛生協議会では食品容器・包装および器具用プラスチック添加剤の使用を自主的に規制しております。即ち、各国において安全性が充分確認され、使用を認められている物質について使用を認め、その添加量をそれ

ぞれ規制し、それらをP・L(ポジティブリスト)として収載しております。当協議会加盟の各社はその規制を厳格に遵守しており、BHTもその一つであります。

①BHTを食品添加物として認めるにあたり、世界各国において多くの研究者により、その安全性の研究がなされてきています。

世界的な権威ある国連機関であるWHO(世界保健機構)FAO(食糧農業機構)では、人の最大摂取許容量は0.5ミリグラム/キログラム/日としております。ワシントン大学のALブランネン博士も、WHO/FAOの勧告が守られているかぎり何ら問題ないことを結論づけています。

また、突然変異性についても、世界的に有名なリットン・バイオテックス研究所の遺伝学の権威者であるD・ブルジック博士が米国厚生省食品医薬品局(FDA)の依頼により行なった実験で突然変異性は認められないとの結論を得ております。

したがって、発ガン性、催奇性はもちろんのこと遺伝性まで含めて考えても、BHTに関して最大摂取許容量0.5ミリグラム/キログラム/日を変更しなければならないという科学的根拠は何ら見出しされておられません。

②当協議会の定めたプラスチックへのBHT添加量規制は、食品添加剤および各種食品容器・包装および器具用プラスチックから、日本人が摂取するBHTの量を推定し、摂取総量が最大摂取許容量(0.5ミリグラム/キログラム/日)をはるかに下回るような安全な量に規制しております。

段ボール・製造・販売 各種包装資材



東海包装株式会社

本社・工場 岐阜県本巣郡穂積町野白新田21

〒501-02 ☎ 05846-3-1155 (代表)

◎ プラスチックの輸出額が激減 ◎

昨年のわが国プラスチック輸出金額がまとまってきたが、ついで仕向地域別、仕向国別の輸出金額がまとまった。

地域別は総輸出金額が2957億8千万円(49年比12.1%減)で、トップはアジア1811億3千9百万円、2位はヨーロッパで494億円、3位北アメリカ290億円などの順。アジア地域向けを除いては各地域とも激減した。

50年地域別輸出金額と構成比

地 域	金額(百万円)	対前年比%	構成比%
ア ジ ア	181,139	112.6	61.3
ヨーロッパ	49,406	88.4	16.7
北アメリカ	29,085	53.3	9.8
南アメリカ	15,964	63.7	5.4
太 洋 州	12,245	45.4	4.1
ア フ リ カ	7,941	10.4	2.7
合 計	295,780	89.9	100.0

50年国別上位10カ国の輸出金額と構成比

順位	国 名	昭和50年(1975年)		
		金額(百万円)	対前年比%	構成比%
1	台 湾	31,373	144.2	10.6
2	ソ 連	27,470	142.1	9.3
3	インドネシア	24,742	145.5	8.4
4	香 港	24,062	100.5	8.1
5	大 韓 民 国	23,889	125.7	8.1
6	ア メ リ カ	17,644	52.8	6.0
7	タ イ	13,812	138.8	4.7
8	フィリピン	13,214	121.5	4.5
9	イ ラ ン	9,934	216.0	3.4
10	中華人民共和国	8,929	42.5	3.0

国別には台湾、ソ連、インドネシア、タイ、イランなどが伸び、アメリカ、香港、中国向けが後退した。このため順位は大幅に入れ替わった。地域別、国別のプラスチック輸出金額は表のとおり。

◎ 廃プラ再生業者が組合を設立 ◎

廃プラスチック処理再生業者8社は、このほど東京で「日本プラスチック処理再生組合」を設立した。理事長にはタイトー工業(浜松市)の高橋勝社長が就任、こんご再生プラスチックの共同受注、品質・形状の規格化などと取り組む。また、プラスチックの廃棄物公害の解消を進めていく。

三菱油化株式会社

取締役社長 黒 川 久

本 社 〒100 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号(三菱ビル)
TEL (03) 283-5689(代)
名古屋支店 〒450 名古屋市中村区広井町3丁目88番地(大名古屋ビル5階)
TEL (052) 563-5641(代)

***** 全国業界のニュース *****

価格と供給の安定確保

西日本プラ
成形工業組 共同購買センター設立

西日本プラスチック成形工業協会（城戸剛一郎理事長）は、原料樹脂の安定価格と入手量の安定確保をねらった協同組合西日本プラスチック共同購買センター（仮称）を設立計画している。

設立のねらいは、原料樹脂の共同仕入れによって原材料樹脂価格の安定と供給の安定を確保し、プラスチック製品価格の安定、品質の向上を図ろうというもので、全国のプラスチック加工業界で主原料の共同購買センターをつくるのは初めて。

当初は近畿2府4県と福井県の会員50社で構成、プラスチック原料や副資材、成形機械、金型などプラスチック成形加工に必要とするものの共同購入を主事業とする。樹種は消費量の多い汎用樹脂原料にしぼる。当面の共同購入量は年間10～20万トン程度を予定している。

◎日本製鋼所が機構改革行なう◎

日本製鋼所はこのほど機構改革を行ない①横浜製作所に生産管理部を新設、現製造部から油圧機械生産管理課、樹脂機械生産管理課を移す

とともに、予算管理課（新設）技術部内の品質保証課を所属させる②製造部に油圧単体課を新設③技術部を設計部に改称し、電装設計課を新設一が主な内容。

◎全成形連会長に大松氏再選◎

全日本プラスチック成形工業連合会はさる6月10日、兵庫県の有馬・兵衛で第15回通常総会を開き、51年度事業計画、収支予算などを決め



たあと役員の改選で大松幸栄会長（中部日本プラスチック成形工業協会会長、岐阜プラスチック工業社長）を再選した。任期は51年、52年度の2年間。

◎プエ連では大松氏副会長に◎

日本プラスチック工業連盟（岡藤次郎会長）は、さきの総会で会長一任になっていた副会長に西川達明塩化ビニール工業協会会長（菱日会長）と大松幸栄全日本プラスチック成形工業連合会会長（岐阜プラスチック工業社長）の両氏を選任した。

山田化成株式会社

取締役社長 山田正水

本社 〒101 東京都千代田区内神田2丁目8番4号
TEL (03) 256-7861(代)
名古屋出張所 〒460 名古屋市中区丸の内3丁目13番18号(サワニビル)
TEL (052) 961-6591(代)

釣りに想う



真鍋 義雄

私の釣り歴は、小学校三年生の頃からである。ドンコ釣りから始

まり、このところ両三年はヘラ鮎釣りに熱中している。少年期もいまま釣果の大きい事を最終の目的にしていることはもちろんであるが、近年は道路事情の好転によって行動範囲の拡大が釣果以上の魅力となるのがまことに多い。夏の山上湖で鶯の美しいさえずりを聞きながら浮子に目を凝らす気持ち、晩秋の冷え込んだ朝の湖面から立ちのぼる霧を見ながら釣座の選定など心の和む情感は、何物にも例えられない思いである。

また、春ようやく盛りとなる頃、桜満開の景観に目を見張り、緑一色の山間に、山桜の一本が薄桃色の色を添えている情緒など、釣行によるたまものと言わざるをえない。

とにかく、釣果以外に色々と思い出多い風物に出会うとそれのみでも楽しいものだが、それ

に加え、ジッと水面を見つめ、全神経を集中して、浮子の微妙な当たりを心に奪われるこの気持ち、何物にも替えがたい醍醐味である。少少のノイローゼぐらいはたちどころにふっ飛んでしまうだろう。昔から「病気は魚釣りでもすれば治ってしまう」というが、病気によってはそのとおりと思うが、私のような持病(十二指腸潰瘍)はそんな具合にはいきかねる。

年間200回以上釣行する私であるが、ちょっと摂生を誤ると直ちに再発して困っている。これは食養生に専念しなければ、魚釣りだけでは治らない。しかし体力の維持ということには絶対的に効果があるものと私は信じている。

満70歳の私が20代、30代、あるいは45歳代の人々に伍し、あの重い釣具入バッグやサオ袋を持って釣場を回ることができる体力は釣行の積み重ねによって維持されていると信じている。

ゴルフ、競馬、競輪、パチンコ等々人それぞれに趣味娯楽を楽しんでおられるが、これらの方々にぜひとも釣りの醍醐味を楽しんでもらいたいものである。

私が釣りから手を引かなければならないときは、即ち私がこの世からおさらばするときであろう。(厚見プラスチック代表)

中外貿易株式会社

取締役社長 土井 宇太郎

本 店 〒104	東京都中央区築地 1丁目12番22号(コンワビル)
名古屋支店 〒450	名古屋市中村区広井町 3丁目98番地(名古屋ビル)
	電話(052) 541-8176(代)

*****組合員の工場拝見*****

廃プラ再生に全力



田中弘一社長

田中化学工業所を訪問

組合員の工場拝見第2回は、副理事長の田中弘一さんが経営する田中化学工業所（資本金550万円、従業員15人）を訪問した。

工場は長良川の小瀬戸銅いに近い関市小屋名520で、郡上へ行く国道156号線を少し入ったところ。

工場用地は9900平方メートルとゆとりがあり、奥まったところに工場がある。押出成形機工場、射出成形機工場の2棟にわかれ、それに倉庫、事務所など、工場の延べ面積は約650平方メートル。昭和31年までは岐阜市内の鳥田中町にあったが、関市の工場誘致にのって進出、32年に新築移転した。

現在の工場施設は、押出成形機工場に4台の成形機があり、主として廃棄プラスチックの再生作業をしている。射出成形機工場には2.5オンスから6オンスまでの成形機が4台あり、再生された原料を使ってスイッチカバー、機械用のギヤー、靴のかがとなどを成形加工している。

接着剤の技術で再生原料生産

創業は2次大戦後の24年で、当初は個人会社として経営、社名も田中化学研究所と呼んだ。川崎航空（現川崎重工）時代に培った技術を生かした接着剤の開発がねらい。研究開発した接着剤はサクサンモノマーとアクリル酸モノマーの共重合で、当時は川崎が生産するバスのシートや床材を接着するのに大量納入したという。サクサンモノマーはその後、セメンダインやボンド開発の手がかりになったもので、当時の田中さんは「接着剤の権威者」であったことはいまでも語り草になっている。

現在進める廃棄プラスチックの再生作業は接着剤生産の技術を応用したもので、初めは押出



始業時に勝負を決める
PLASTAR TMシリーズ

毎朝成形機の運転開始の時、前日と同じ条件・設定にもかかわらず、最初は安定した成形品が出来ない。こんな事で御困りの方は、是非プラスターTMシリーズを御使用下さい。

抜群の再現性をもって皆様に奉仕します。

★プラスターTMの特長

- ①安定成形
- ②最適成形
- ③高速成形
- ④ノンストップ成形
- ⑤安全成形

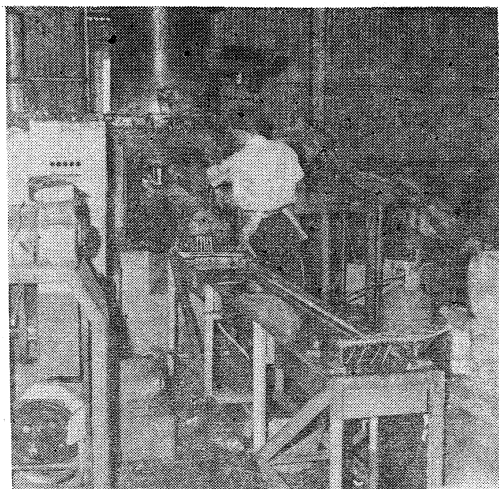
BSK 東洋機械金属株式会社

本社・工場 明石市二見町福里 ☎07894(2)2345(代)
 名古屋営業所 名古屋市中村区則武1丁目2番1号(兼重ビル) ☎052(452)1066(代)
 岐阜出張所 岐阜市光町1丁目2番地 ☎0582(33)4722
 信州出張所 松本市大字筑摩井川城4578の1 ☎0263(25)3182
 営業所 大阪・東京
 出張所 北関東・京浜・多摩・埼玉・広島・奈良・三島・北陸・千葉・群馬・湘南

◆其他営業種目

ダイカストマシン・発泡スチロール成形機・ラバスター・搬送機器・鋳鍛造品

*****組合員の工場拝見*****



工場は長男の専務に任せきり

再生原料づくりは順調に進み、33年ごろからは原料購入から販売にいたるまで一貫生産体制を整えた。さらに48年には射出成形機工場をつくり、再生原料をもとに成形加工をするまでに手を広げた。

工場内の実務は長男の専務、田中宣男さん(36歳)に任せきりで、田中さんは岐阜の旧工場跡を研究室とし新技術の開発および後進の指導を担当している。こんごの経営方針について田中専務に聞くと「やはり廃プラの一貫生産が主力です。合成樹脂再生加工は、昭和50年に構造改善の指定業種になっている。当社は大メーカーの系列に入らず、全国的にも珍しい独立した形態をとっているから、他社に呼びかけて特定業種に指定されるように活動していきたい。幸わい社長が組合活動に精通しているの、これに重点をおき近代化に努力したい」と語っている。

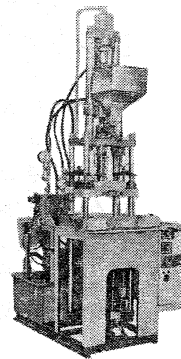
(写真は田中化学の再生原料工場)

成形機を3台購入、再生原料を生産した。東レ、帝人、ユニテカなど紡績メーカーから出たナイロンの糸くずを再生、成形用のペレットをつくった。このようなナイロン関係の再生は新しい試みで、資源活用の建て前からも話題になった。

さんじょうの射出成形機!!

— 営業品目 —

- 熱可塑性樹脂及び熱硬化性樹脂、ゴム用射出成形機
- ロストワックス用ワックス成形機、ワックス溶融装置、保温装置
- 液状原料用射出成形機、注入機、混合脱泡機
- セラミック用射出成形機
- 当社射出成形機用金型
- その他関連装置



精密工業部品、インサート成形に特に適した機械と定評を頂いております。

射出量5グラム(1/6オンス)より600グラム(20オンス)までの各機種を製作いたしておりますので、用途に合わせてご用意下さい。

●カタログご希望の方は紙名ご記入の上お申込み下さい。
— 成形機・金型・関連装置を社内一貫生産している専門メーカー —

株式会社 山城精機製作所

本社	東京都板橋区弥生町32番地	TEL(03)	972-0561(代)
業務部・工場	埼玉県川口市中青木2丁目18-21	TEL(0482)	51-6156(代)
名古屋営業所	名古屋市北区桶町味鋳政所28番地	TEL(052)	901-5861番
大阪営業所	TEL(06) 443-3771(代)	八王子出張所	TEL(0426) 51-7144番
九州営業所	TEL(092) 571-2740番	小倉出張所	TEL(093) 471-1079番
前橋営業所	TEL(0272) 52-0733番	城南出張所	TEL(03) 776-2254番
広島出張所	TEL(0822) 32-2765番	沼津出張所	TEL(0559) 22-9610番

射出成形機のことなら名機です

名機のご相談コーナー

- 成形上の問題点
 - 自動化、省力化等の工場管理
 - 特殊な機械に対するご相談等
- いつでも皆様のご利用をお待ちしております。

株式会社

名機製作所

〒474 大府市北崎町大根2 TEL0562-48-2111

射出成型機専門メーカー



川口鐵工株式会社

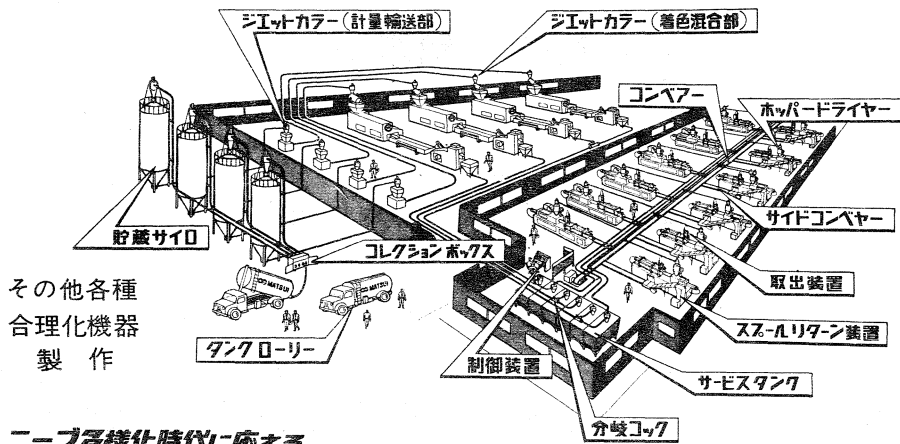
名古屋営業所 電話〔052〕452-6776(代表)

〒453 名古屋市中村区竹橋町1-74(さかえビル3F)

岐阜サービスセンター 電話〔0582〕94-0201

〒502 岐阜市長良福光字寺前 2521-1

成形のコストダウンを実現する マツイ省カ化システム



ニーズ多様化時代に応える



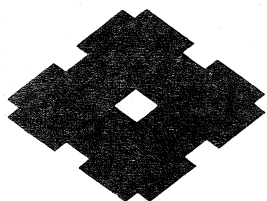
- 名古屋営業所
名古屋市南区千電通7-2
TEL.052(822)8621(代)
- 販売本部 TEL.0720(51)6120
- 大阪営業所
- 東京営業所 TEL.03(934)3301

三井ノブレン ビニクロン ライクック-A ト-ポレックス



三井東圧化学株式会社

本社 東京都千代田区霞が関3-2-5
名古屋支店 名古屋市中区錦3-23-31
(栄町ビル)
TEL(052)961-3311



住友化学工業株式会社

名古屋営業所

460 名古屋市中区錦1丁目11番18号

(興銀ビル)

電話 (052) 201-7 5 7 1

電略 受信ナゴヤ・サカエ・スミナコ
発信スミナコ

UL-94-V0 認定材料

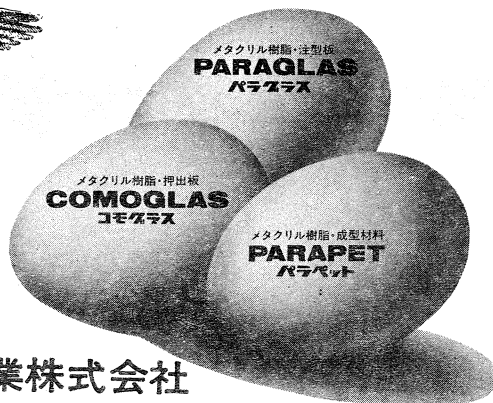
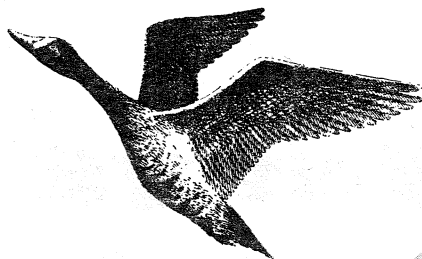
自己消火性樹脂

JSR NF95
JSR NC100

日本合成ゴム株式会社 本社/東京都中央区築地2-11-24 TEL(03)541-4111・名古屋支店/TEL(052)571-1231

創造へのはばたき。

あらゆる可能性を語りかけるすばらしい素材



協和ガス化学工業株式会社

本社 / 東京都中央区日本橋3-8-2 新日本橋ビル ☎(03) 271-3001
名古屋営業所 / 名古屋市中区錦3-11-23 三栄ビル ☎(052)951-6396



伊藤忠商事株式会社

名古屋支社 化学物産部合成樹脂課

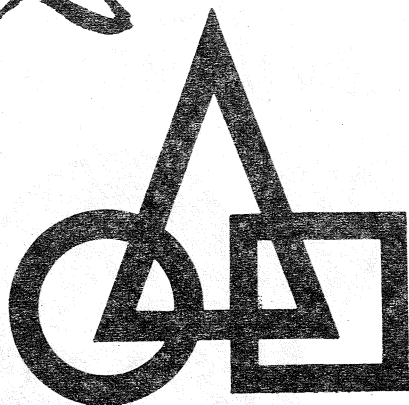
名古屋市中村区笹島町1丁目223番地 (名鉄バスターミナルビル)
電話 名古屋 (052) 583-(2481~2486)

三菱化成工業株式会社

取締役社長 鈴木 栄 三

本 社 〒100 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号(三菱ビル)
TEL (03) 283-6725(代)
名古屋支店 〒450 名古屋市中村区広井町3丁目88番地(大名古屋ビル7階)
TEL(052) 562-2560(代)

出光 の石油化学製品



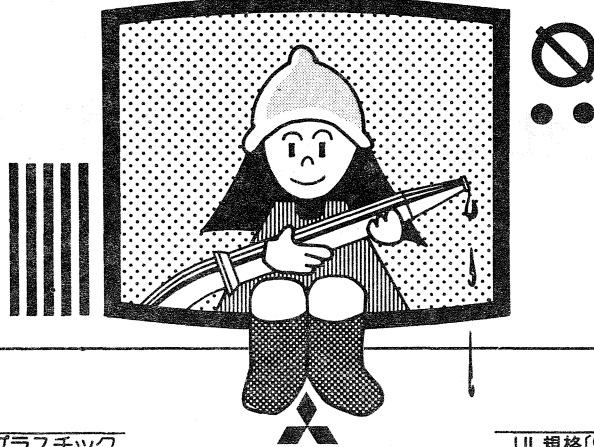
◎取扱品目

ポリスチレン
高圧ポリエチレン
中低圧ポリエチレン
ポリプロピレン
ABS樹脂
不飽和ポリエステル
カルブ®
ポリカーボネート

出光石油化学株式会社

東京都千代田区丸の内3-1-1(国際ビル) 〒100 ☎ 03-213-3111
東京営業所 東京都中央区日本橋1-7-17(日本橋東海ビル) 〒103 ☎ 03-272-8331
名古屋営業所 名古屋市中区錦1-17-13(名典ビル) 〒460 ☎ 052-231-8611
大阪営業所 大阪市北区小松原町27(富国生命ビル) 〒530 ☎ 06-312-8841
福岡営業所 福岡市中央区大名2-8-26 〒810 ☎ 092-721-6617

自己消火性のタフレックス®VBは UL規格認定の難燃性樹脂です。



燃えにくい、安全なプラスチック。

タフレックス®VBは、すぐれた自己消火性とバランスのとれた物性を兼ねそなえた難燃性樹脂です。

三菱モンサント化成株式会社

本社・東京都千代田区丸の内2-5-2 千100 三菱ビル 東京 03(283)4495
名古屋支店・愛知県名古屋市中村区広井町3-88
(大名古屋ビル) 〒460 ☎(052)561-9711(代表)

UL規格(94V-0(t=1/16"))認定

タフレックス®VB

File No. E-49095



ニーズに**適確に**
こたえることで
未来の扉をひらきます

産業や生活のあらゆる分野で、便利さや快適さを生みだしているプラスチック。このすぐれた特性をコントロールして、繁栄のためによりよく活用しなければなりません。信越ポリマーはプラスチックを主な素材として、各種の製品を多角的に開発、生産、販売しています。一方、これらの製造や流通のプロセスにあたって、安全や環境の保全にも十分配慮し、時代と社会のニーズにこたえる新しい価値づくりを進めています。

新しい素材を価値あるものに

信越ポリマー

名古屋市中村区広小路西通3-4(新名ビル東館) ☎052(581)4231

徳山ポリプロ 徳山OPフィルム

ポリプロピレン二軸延伸フィルム



徳山曹達株式会社

名古屋営業所

名古屋市中村区広小路西通り3丁目4番地(新名古屋ビル東館5階)
電話(052)581-1304(代)

本社 山口県徳山市御影町1番1号 電話(0834)21-4321
加工研究所 山口県徳山市晴海町1番1号 電話(0834)22-1661
支店・営業所 東京・大阪・福岡・広島・高松

三菱レイヨン株式会社

取締役社長 金 沢 脩 三

本社 〒104 東京都中央区京橋二丁目8番地
電話(03)272-4321(代)
名古屋支店 〒450 名古屋市中村区広井町3丁目88番地(大名古屋ビル10階)
電話(052)561-6711(代)

鋼と機械の総合メーカー



株式
会社

日本製鋼所

日鋼プラスチック機械センター
日鋼サービス株式会社

本社 東京都千代田区有楽町1-12(日比谷三井ビル)
電話(03)501-6111

名古屋営業所 名古屋市東区布池町32
電話(052)935-9471

大阪営業所 大阪市北区中之島2-22
電話(06)203-3661